



平成3年の排砂は大きな環境問題となりましたが？

平成3年12月、関西電力(株)出し平ダムは初回の排砂を実施しました。その排砂は、ダム湖内に6年間かけて溜まり変質した土砂を流したため、下流に大きな影響を与えました。土砂の中に含まれている有機物は、時間の経過により変質してしまうのです。しかし、現在の排砂は、平成3年の排砂とは方法が違います。

- 1 土砂を長い間ためないで、毎年排砂することで、土砂の変質による環境への影響を最小限に抑制します
- 2 平成3年は12月の川の水が少ない時期に行いましたが、現在は洪水の水が多く濁っている時にあわせて、排砂を実施しています
- 3 地域や専門家の方々に十分な説明を行い、ご理解を得て排砂を行うルールを確立しています



黒部川扇状地より富山湾を望む

この清らかさを守っていきます おわりに…

黒部川にとって「連携排砂」は必要不可欠です。また、現在の排砂は平成3年の初回排砂とは方法が違い、より自然に近い形で、十分な説明と綿密な環境調査を行いながら実施しています。宇奈月ダムは、今後も「ダムと自然の共存」を目指して、努力していきます。



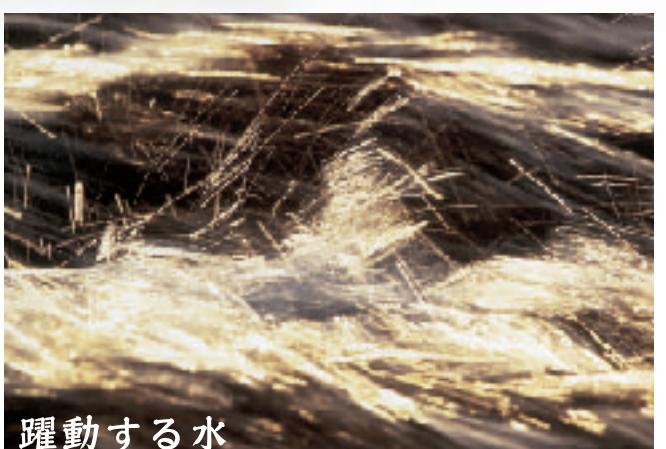
黒部川の新緑



黒部川暮色



秋色の山肌



躍動する水

写真提供／山田一雄氏(写真家)